

「新しい小田原へ」 2年間の成果と今後の課題

2010. 6. 6

小田原市長 加藤 憲一

就任後の周辺情勢

- チェンジを求める市民の大きなうねりと期待
- 予期せぬ未曾有の経済危機と、地方自治体の財政悪化
- 歴史的政権交代の中で、国としての政策枠組が流動化
- 地域主権、市民主権への流れが明確に

新しい市政に何が求められたか

- 市民の思いや願いが反映される市政にする
- 小田原の今と未来に、誇りと希望を取り戻す
- 将来にわたり安心して暮らせる、まちの形と営みを創る

取り組んだ課題と

これまでの成果

① 前政権の遺した宿題の解決

駅・城周辺の開発案件の事業化

- **地下街**: 小田原らしい商業空間として23年度末再開を目標に、現在JR東日本と集中協議
- **お城通り地区再開発**: 駐車場と公共機能を核にした空間整備から着手すべく、計画のツメ
- **市民ホール**: 市民による芸術文化創造拠点として、用地拡大と新基本構想づくりが進展

②「新しい小田原」の設計図と工程表 および協働の基本ルールづくり

- 新総合計画

6月より審議会 ⇒ 23年4月よりスタート

- 地域別計画

全ての自治会連合会エリアで策定

- 自治基本条例

23年4月スタートを目標に集中作業中

③ 市民が主体となつての 課題解決手法の検討

- まちづくり、行財政改革、地域コミュニティ、地域医療体制などの**各種検討委員会**
- **おだわらTRYフォーラム**（総合計画）
- **地域まちづくり検討委員会**（地域別計画）
- **オープンスクウェア**（自治基本条例）
- ケアタウン構想づくり、身近な環境再生、生ゴミ堆肥化などの**市民参画プロジェクト**
- **無尽蔵プロジェクト**

④ 地域コミュニティの機能強化

- 25の自治会連合会エリアを基本
- 全地域で「地域別計画」を策定
- 地域を舞台としたモデル事業開始
 - ケアタウン(5)、スクールコミュニティ(4)、
環境再生(4～6)、生ゴミ堆肥化(3)、
地域コミュニティモデル事業(5)など
- 地域担当職員の試験的配置
- 順次、「地域運営協議会」の設置へ

⑤ 民間を主体とした 新たな振興策への着手

- 地域資源を活かす「無尽蔵プロジェクト」
 - ①ウォーキングタウン小田原
 - ②食の小田原
 - ③文学のまちづくり
 - ④環境(エコ)シティ
 - ⑤市民による芸術文化創造
 - ⑥ものづくり・デザイン・アート
 - ⑦わが町振興プロジェクト
 - ⑧小田原ならではの住まいづくり
 - ⑨シネマとライブのまち
 - ⑩Odawara Style

⑥課題への着実な取り組み(例) ～いのちを大切にする小田原～

- 地域包括支援センターの機能拡充
- 小学校2年生までの少人数学級導入
- 障がい者地域作業所への家賃補助
- 保育所への早期発達支援事業
- 妊婦歯科健診の導入
- 市立病院の機能拡充
- 食育を地域で進める「教育ファーム」等

⑥課題への着実な取り組み(例) ～希望と活力溢れる小田原～

- 県下唯一の有機農業モデルタウン認定
- 建設業と連携した耕作放棄地解消事業
- 清閑亭を拠点としたウォーキングタウン作り
- おだわら井、小田原手形などの支援
- 「無尽蔵プロジェクト」の推進
- 「まちづくり会社」による中心市街地活性化
- 文化芸術の担い手育成活動 等

⑥課題への着実な取り組み(例) ～市民が主役の小田原～

- 柔らかい段階で市民が議論し政策をつくるスタイルの定着
- 身近な環境再生に向けた地域住民による「環境再生プロジェクト」の始動
- 800世帯以上が参加する「生ゴミプロジェクト」
- 行財政運営における「市民によるモニタリング」制度の導入検討 等

⑥課題への着実な取り組み(例) ～豊かな生活基盤のある小田原～

- 公共建造物の耐震補強推進
- 上下水道の幹線管渠の老朽化対策
- 地域ごとの自主防災活動の機能強化
移動系無線の配備など
- 道路整備の着実な推進
- ゴミ減量に向けた生ゴミ堆肥化への挑戦
- 花と緑と水の環境整備事業 等

⑦ 行財政改革

- 歳入・歳出構造を、**持続可能**なものへ
事業仕分けの実施、外部モニタリングへ
受益と負担の見直し
施設白書、財政白書(予定)など
- 本庁中心から、「**地域が最前線**」へ
地域運営協議会
職員の地域担当制 など
- 23年4月における大幅な**組織機構改革**

⑧ 職員・組織風土の活性化

- 各種**組織横断型**プロジェクト
スクールコミュニティ、歴史まちづくり、
片浦中活用構想、小田原城跡植栽管理 等
- ⑩新しい形式の**庁内コミュニケーション**
オープンスペースミーティング
シナリオプランニング、ワールドカフェ 等
- **職員と市長との意見交換会**の実施

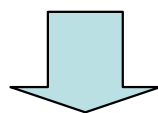
⑨ 広域行政の新たな枠組へ

- 3つの広域連携を統合し、中期的な一体化を視野に入れた課題解決の体制へ

広域市町村圏協議会

西さがみ連邦共和国

あしがら広域圏ネットワーク



神奈川県西部広域行政協議会

着手率と、成果

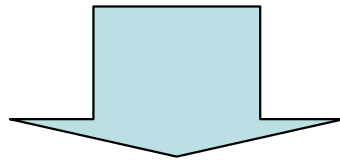
- マニフェスト掲載の重点政策59本に対し、実際に着手したものが57本。着手率97%。
- しかし、その政策の完遂という視点では、総合的に進捗率が50%。
- 取り組みが「成果」としてハッキリ見える段階ではないが、仕込みは着実に進んでいる。
- 最大の成果は、実に多くの市民が、新しい小田原を創る作業に参画してくれていること。

任期後半への展望と課題

- 新しい小田原への道筋と方法論の確定
新総合計画と自治基本条例など
- 地域を基本とした「新しい公共」の確立
各分野のモデル事業実践を通じて
- 足腰の強い地域経済の立ち上げ
無尽蔵プロジェクトの本格展開と進化など
- 新しい小田原市役所の形の具現へ
組織機構改革／職員地域担当制の本格導入
- いわゆる3大案件の解決策の確定

市政改革のステージ

- 「新しい小田原」のビジョンを共有する
- 課題解決の手法を市民主体で考える
- 協働の機運を育む



- 「新しい小田原」の設計図と歩み方が決まる
- 地域づくりや市政運営の新たな型が決まる
- 各地域や分野で課題解決への動きが進む

「チェンジ」とは、「進化」であるべき

- 山積する困難な課題、深刻な財政難、予測のできない未来
- 必要なことは、高いレベルの問題解決能力を地域に内製化すること
- 外面的なカタチや制度だけでなく、質的なレベルアップこそ必要
- 一人ひとり、そしてそれぞれの集団、更に地域社会として

今、私たちに必要な姿勢

- 誰もが「課題解決の当事者」たる意識を持ち、力を持ち寄ること（推譲）
- 今地域が持っている可能性を徹底的に掘り起こすこと
- その場限りでない、確かな「営み」を創ること
- 持ち込むのではなく、育てること（「荒地は荒地の力で」）
- 心を合わせること

「新しい小田原」を育てよう

- 新総合計画に明記する、目指すべき都市像

「市民の力で未来を拓く希望のまち」

- 重点政策群:「未来への投資」6分野
子ども、生産力、自然環境、都市の顔、
芸術文化、地域のカ